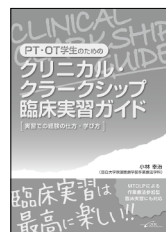


小林幸治 (著)

PT・OT 学生のための クリニカル・クラークシップ 臨床実習ガイド 実習での経験の仕方・学び方



岩 崎 テル子

(新潟医療福祉大学, 名誉教授)

評者が作業療法領域での「対象者中心主義 (client centered)」の理念とその評価法を学生に紹介したのは、カナダ作業遂行測定 (COPM) の訳本 (吉川ひろみ, 上村智子, 1998) を見てからでした。作業遂行の問題や関心事を決めるためにクライアントにインタビューし、セルフケア、仕事、レジャーの各領域でクライアントから「したいと思うこと、する必要があること、することを期待されている活動」を聞き、重要度を10段階で答えてもらう。その重要度に応じてOTとしての解決策を提案し、クライアントの賛同が得られれば実施するという手順です。評者は幾度も作業療法概論でこの簡単なA4サイズ1枚の評価表を使って、実習・発表・検討会を行いました。

このクライアントを実習学生に置き換えれば、そのまま学校の教員と臨床教育者 (以下, CE) の指導指針が得られます。著者は何年にもわたってクリニカル・クラークシップ (CCS) の普及に努めながら、実はそのクライアントたる学生自身にこの実習方法の目的、

方法、受け方、評価・学習のポイント等を詳しく教えてこなかったことに気がつきました。今回「PT・OT 学生のための……」と銘打ったこの本の出版には、学生へのエールと、クライアントに寄り添って支援できる未来のOTへの期待と希望が溢れています。もし養成校のカリキュラムにCCS実習の受け方についての講義時間が取れなければ、この本を副読本として学生に与えていただきたい。実は学生の質問に答えるためには、教員とCEご自身にも読んでいただかなければなりません (小林・岩崎編『今こそ変えよう臨床実習! 作業療法のクリニカル・クラークシップ (CCS) ガイド』2017, 三輪書店もあります)。

もう一つ加えたい点は、“ですます調”の優しい語り口です。学生目線の穏やかで謙虚な語り口は著者の人柄そのものであり、自然に読者を納得させる吸引力をもっています。本書は作業療法の4領域3段階のどの実習段階にも共通する9章 (chapter) から構成されています。Chapter 1では、「学び方・参加の仕方を知ることは重要

な知識であり、実習の成否を分ける」とまず「POINT」で強調され、CCS方式に則って各章で詳述されます。このような具体的説明を可能にしたのは、著者の勤務先がCCSの先進実践校であったこと、学内で「CCSに基づく作業療法臨床教育研究会」の立ち上げ (2016)、日本作業療法士協会教育部での指定規則改訂へのかかわり、日本作業療法教育学会理事としての活動等を通し、多くの教員・CEと触れ合う中から自信をもって編まれたためと推察されます。

PT・OT 養成施設指定規則改正で2020年度入学生からこのCCS (作業療法参加型臨床実習) が適用されます。また、2022年度から実施される高校の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」Active learning が各教科で導入され、思考力・判断力・表現力の育成が図られます。OTの人材確保にとっては朗報です。

B5判 120頁 3,500円+税
シービーアール 刊
☎ 03-5840-7561